



かんたん

# リコーダーで「ゴー・テル・アント・ローディ」を吹こう

## Go Tell Aunt Rhody

リコーダー「ゴー・テル・アント・ローディ」のドレミ楽譜。初心者にもかんたん、音ごとの運指つき。

「ゴー・テル・アント・ローディ」はアメリカの民謡で、メロディーはジャン＝ジャック・ルソーのオペラ『村の占い師』（1752年）から来ています。日本の「むすんでひらいて」も、同じルソーのメロディーがもとになっています。シ♭を覚える最初の曲にぴったりです。使う音は5つ：ファ・ソ・ラ・シ♭・高いド。下に、リズムつきの音と、それぞれの運指があります。

### 音



長いブロックほど長い音です。線は小節の区切りです。

### 五線譜



同じ曲を五線譜で。下に音の名前があります。

## ドレミで書いた音

ラ ラ ソ ファ ファ ソ ソ シ<sup>b</sup> ラ ソ ファ ド<sup>1</sup> ド<sup>1</sup> シ<sup>b</sup> ラ  
ラ ソ ファ ソ ラ ファ

「<sup>1</sup>」は高い音のしるしです：高いド。ソプラノリコーダー用です。

## 運指

**ファ**

親指の穴をふさぐ、1・2・3・4番の穴をふさぐ

**ソ**

親指の穴をふさぐ、1・2・3番の穴をふさぐ

**ラ**

親指の穴をふさぐ、1・2番の穴をふさぐ

**シ<sup>b</sup>**

親指の穴をふさぐ、1・3・4番の穴をふさぐ

**高いド**

親指の穴をふさぐ、2番の穴をふさぐ

「再生」をタップすると音が聞けます。カードをタップすると吹き方が見られます。黒い穴はふさぎます。左手が上（親指は裏、1～3番の穴）、右手が下（4～7番の穴）です。

## コツ

- 1つの音ごとに「トゥ」と舌をつかって吹きましょう（タンギング）。同じ音が続いても、1つずつはっきり聞こえます。
- スープをさますように、やさしく息を入れましょう。強すぎると、ピーッと1オクターブ上の音になります。
- 指先ではなく、指のはら（やわらかいところ）で穴をふさぎましょう。すき間から息がもれません。

- ファはバロック式とジャーマン式でちがいます。バロック式は親指と1～4・6・7番をふさぎ、5番をあけます。ジャーマン式は親指と1～4番だけです。
- シ♭は、親指と1・3・4番をふさぎ、2番をあけて吹きます。
- 高いドは、人さし指（1番）をはなして、親指と2番の穴をふさいだままにします。